



尾上康雄市議

住吉市民病院跡地の民間病院誘致

地元の理解は不可欠

大阪市議会民生保健委 尾上議員が質問

2日開かれた大阪市議会民生保健委員会で日本共産党の尾上康雄議員が質問し、住吉市民病院（大阪市住之江区）の廃止後の跡地への民間病院誘致問題を取り上げました。

市は南港病院（同区）を経営する医療法人・三宝会を誘致しようとしていますが、同法人の提案では病床数が現在の住吉市民病院の計96床から24床に激減するなど、医療水準の後退は必至です。

尾上氏は、住吉市民病院の現行の機能を継続し、大阪市南部医療圏の小児・周産期医療を充実するとした付帯決議（2013年3月）に沿ったものになっていないと批判。三法会は高齢者医療の提供が中心で、小児・周産期医療の経験がないことも指摘しました。

さらに民間病院を誘致

するには、地元医師会長などをつくる市南部保健医療協議会の理解を前提にした再編計画に、厚生労働省が同意することが必要だと指摘。同協議会では医療水準の後退に厳しい声が出ていることを示し、「肯定的な意見がなければ厚生労働省の同意は得られないのではないか」とたどしました。

市側は「反対だと同意を得ることは困難」と認めると同時に、「さまざま機会をとらえて地元住民にも説明して理解を得たい」などと答弁。尾上氏は、住之江区や西成区などで若い世代が生活し、安心して出産・子育てする上でも住吉市民病院の役割は重要だと力説し、「地元活性化のためにも大阪市が責任を持ち、現地で公立として存続させ建て替えるべきだ」と主張しました。